妊娠中毒症，妊娠高血圧症候群における血清尿酸の意義

大野 岩男¹⁾ 山口雄一郎¹⁾ 西川 元¹⁾
上竹大二郎¹⁾ 疋田 美穂¹⁾ 岡部 英明¹⁾
五味 秀穂¹⁾ 市田 公美²⁾ 細谷 龍男¹⁾

目 的

妊娠中毒症，妊娠高血圧症候群（Pregnancy-induced hypertension, PIH）における血清尿酸上昇の意義を明らかにするために，妊娠中毒症，PIH症例において血清尿酸と各種臨床パラメータの関連について検討した。

対象と方法

対象は当院母子センター産婦人科に妊娠中毒症，PIHとして登録され，臨床データが得られた妊娠中毒症93例（このうちPIHは45例）の女性で，妊娠中毒症症例は 32.8 ± 5.4 歳，分娩週数は 34.8 ± 4.4 週，出生時体重は 2031 ± 920 gである．一方，PIH症例は 32.7 ± 5.5 歳，分娩週数は 33.4 ± 4.5 週，出生時体重は 1730 ± 795 gである。

結 果

妊娠中毒症における各パラメーター間の関連では，単変量分析において出生時体重と関連した因子は，分娩週数が強い正の相関関係を示した以外には，腎機能，尿酸，LDH，Hb，血圧であり全て負の相関関係を示した．また，尿酸が関連していた因子については，正の相関関係を示したのが腎機能，LDHであり，負の相関関係を示したのが血小板数，分娩週数，出生時体重であった．妊娠中毒症において出生時体重と尿酸，LDHは共に有意な負の相関関係を示していたが，尿酸よりLDHの方が出生時体重との強い相関関係が認められた．同様にPIHにおける出生時体重と尿酸，LDHの関連では，出生時体重と

LDHにおいて有意な相関関係を認めたが，出生時体重と尿酸には有意な関連は認められなかった．尿酸とLDHは，共に出生時体重に関連していることが考えられ，妊娠中毒症では有意な相関関係が認められ，PIHでは相関傾向が認められた．単変量分析において出生時体重に相関関係がみられた因子の中で何が最も寄与しているのかを重回帰分析で検討すると，妊娠中毒症，PIH共にLDHだけが有意な負の関連を示していた．

考 察

血清LDHの意義については，出生時体重との関連において，AST，ALT， γ GTは有意の関連は示さずにLDHのみが強い関連を示していることから，血清LDHは単なる肝障害を表しているとは考えにくい．何らかの液性因子が，血清LDH上昇と血清尿酸上昇を引き起こしている可能性が考えられた．液性因子の候補としては，sFlt-1の過剰が妊娠高血圧腎症の内皮細胞障害，高血圧，蛋白尿に関連すること，sFlt-1は妊娠高血圧腎症と他の妊娠関連高血圧の鑑別に有用であること，さらに妊娠高血圧腎症の重症度に関連するとされる尿中sFlt-1/PlGF比が血清尿酸と相関することなどから，抗血管新生ペプチドである胎盤由来のsFlt-1などが液性因子の候補として挙げられる．すなわち，sFlt-1などの液性因子が内皮細胞障害などを介して血清LDH上昇と血清尿酸上昇を引き起こしていることが想定された．今後，血清尿酸と内皮細胞障害との関連についての検討が望まれる．

1) 東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科

Iwao Ohno, Yuichiro Yamaguchi, Hajime Saikawa, Daijiro Uetake, Miho Hikita, Hideaki Okabe, Hideho Gomi and Tatsuo Hosoya

2) 東京薬科大学薬学部病態生理学教室

Kimiyoshi Ichida